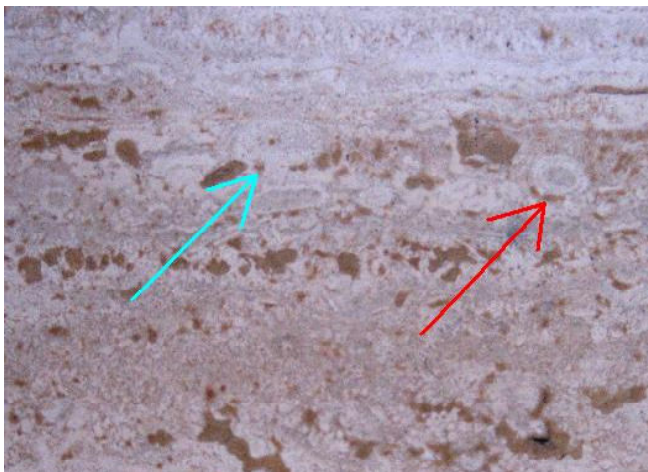


高岡文化ホールの壁面に使われている石灰岩

氷見線越中中川駅を降りてすぐの所に位置する高岡文化ホールの入り口から中へ入ると、ロビーの壁面にふんだんに大理石が使われているのがわかります。もともと、「大理石」と呼ばれるものは、岩石学上では結晶質石灰岩のことを言いますが、石材としては非変成の石灰岩も含まれます。高岡文化ホールの壁面を彩る石材は、残念ながら産地を示すデータはすでに残っていませんが、石材そのものは「トラバーチン」とよばれる石材のようです。この石材はもともとは熱帯のサンゴ礁で形成されたようで、多孔質で平行な縞状構造を持っているのが特徴です。表面をよく見ると、小さなまるいものや、貝殻の破片のようなものも含まれていますが、素人でもわかるようなはっきりした化石はほとんど見つからず、化石かどうかの判別も含めて種類を同定するのはかなり困難なようです。



※上の写真は、高岡文化ホールの承諾を得て撮影し掲載したものです。